

(主要テーマと関連する主な意見)

第3回懇話会 主要テーマ：「働く」

(これまでの懇話会での意見の概要)

格差があるということ認識して、どのように是正するかに知恵。

農山村を活かす。

本来の人間の幸せはどこにあるのかという基本的なことに立ち戻って考えていくことが大切。

学生のまち京都の力に感動、一方で東京や大阪など京都以外を志向している現実。京都の企業の人材不足。京都府内でものづくりを完結する「メイドイン京都」の取組が大事。

外国人が生活しやすい地域づくりに関心が必要。

京都に留学生は多いが就職が困難。もっと京都で留学生を活かす。

第4回懇話会 主要テーマ：「学ぶ」

(これまでの懇話会での意見の概要)

人の幸せや平和を願うことができない現実。ものやお金では真の豊かさを得られないことに気付くことが大切。

新しい公共の基礎力として「京都府民の日」を制定。

京都に来れば心が救われると思う機会を作り、喜んでもらえる生きた宗教都市・精神都市を創る。道徳教育や精神文化を京都から発信。

小さいときに地域の先人から学んだり、地域の情報を聞くことが地域社会への思いを深め、人格を形成する上で大切。地域学習の機会の拡大が重要。

子どもたちに元気がない、子どもたちが夢を持っていない。学校教育を豊かにすることが大切。

生活習慣と学力の間には相関関係があり、就寝時間と朝食の取り方に問題がある。教育に責任を持っている人がいないという構造的な問題。

第5回懇話会 主要テーマ：「育む」

(これまでの懇話会での意見の概要)

子育ての孤立化が問題。仲間づくりを通して、社会や回りの状況に振り回されず、子どもの良さを見失うことのない子育てが大切。

緩和医療が今後重要。また、自殺対策や救急医療ネットワーク、新たな感染症対策も含め健やかに人生の終焉を迎えられる京都を創る。

京都で子育てをして良かったと思える京都府が理想。

第6回懇話会 主要テーマ：「つながる」

(これまでの懇話会での意見の概要)

政治経済以外のもっと大事なものを、京都から世界に発信。

自治会活動が停滞、古い体質のままでは機能不全。参加者の意見が反映されるなど、参画や行為が承認されるような仕組みで地域を動かす。

京都の良さを活かして、新しい文化を発信し、学生の力を集め、そして京都の文化を担う人材をつくり、また発信する。

子育てを通じて、仲間づくりから親を変え、親を変えることで地域を変える。

そして、子どもを育てやすい地域づくりを実現。NPOには行政と対等な立場での「協働」が重要。

人と人が結び合って、京都の地域の特色を活かして、地域で地域に合ったものを生み出していくことが大事。「人がつくれるまち」を目指すべき。

府民による理解と監視が重要。府に対する府民の期待を意識。京都市との協調も重要、ありがたい京都府には府全体をイメージすることが重要。

市町村への権限移譲を進める。

自然界・時間・人、この3つの関わり方が異文化コミュニケーション。人との関わり方では世代を超えた人々との関わりが大切。

コミュニケーションが生活の中で希薄化。地場産業に繋がるような教育学、経済学の実践も必要。新しいグループの活用や、若い人のアイデアを取り入れていくシステムづくりが重要。

自然に交流しながら助け合えるような機会を世代間交流につなげることが重要。

コミュニティの作り直し、地域の伝承に「祭り」の復活が有効。

第7回懇話会 主要テーマ：「京都に い(生・活)きる」

(これまでの懇話会での意見の概要)

低炭素社会は必然。10年後を見定め、エネルギーに頼らないまちづくりや移動人々のコミュニケーションを考えていくべき。

京都には東京にはない人の繋がりや生活習慣があり、京都がモデルとなって、これから日本の生活の美ということを示すことが可能。

自然・建物・街並み・知識・伝統等の資産を見直し、それらを組み合わせて新しい創造性を生み出すことが大事。

伝統産業や伝統文化に携わる若い人の減少を危惧。

地球温暖化問題をはじめ、自然界との関わり方が京都にとって大きな問題。時間との関わり方では、「春夏秋冬」「朝昼晩」という時間の大切さを京都から発信。

自然との共生を歴史的に体感してきた京都は、味覚や嗅覚といった五感を使った体感の現代的な意味を語っていくことができる。

京都といえばこれというものを全面的に出してアピール